



ふかさわりけんすけ
深澤竜介 議員
(政正会)

体験型観光を中心にすべきとの提案

深澤 昭和の観光は、団体旅行中心であった。平成の観光は、ネットでもかく安売りの時代であった。これからの新しい時代はやっぱり質の時代、そして「今だけ、ここだけ、あなただけ」に体験できるもの、味わえないもの、そうしたものを売っていくのがこれからの観光の大きなメインになると考える。そこで、今後の観光戦略として、体験型観光を中心とすることを提案する。

産業振興部長 体験型観光は年々増加して、特にキャンプ場の入込客数は28年度に約24万人と、25年度から約5・7万人増加した。

深澤 体験型観光を取りまとめる組織はあるのか。

産業振興部長 現状はないが、富士地域観光振興協議会で実施している富士山3776型広域DMO設置検討事業で検討していきたい。

「インスタ映え」する「結婚しました!」ボードの設置

深澤 婚姻届を出したカップルが、インスタグラムにアップしたくなるようなボードを作り、市民が富士山の麓の富士宮市を発信していくことを提案する。

市長 30年度に予算化し、なるべく早く設置を行う。



▲ボードが設置され、市民が発信する時代になればおもしろい(写真はイメージ)

水道・下水道施設内での小水力発電について

深澤 当市は小水力発電が日本一であるが、全てが民間のものである。水道・下水道施設内、小水力発電に適当なところはあるか。

水道部長 下水道施設は有効な場所はないが、水道施設ではある。しかし、安全面での課題があるため、検討する時間がほしい。



なかむらけんいち
中村憲一 議員
(進新会)

富士山3776型DMO設置検討業務並びに富士市との広域連携及び中核市移行からの連携中枢都市圏形成について

中村 DMO(※)設置の見直しは。産業振興部長 富士市と富士宮市の行政、観光協会及び商工会議所等で設置する富士地域観光振興協議会において、地域連携DMOの設置について調査研究中。

中村 なぜDMO設置検討のパートナーが富士市なのか。

産業振興部長 当市にとって理想的なDMOは環富士山だが、その動きはない。観光客でにぎわっている北麓東麓に対し、南麓西麓にスポットを当てることが重要。よって、新幹線新富士駅を擁する富士市と一体となって進めている。

中村 DMOに不可欠な経営的な視点の観光専門人材の確保は。

市長 観光課が頑張っていて、観光協会・商工会議所・青年会議所が張り切っているので、専門職の配置より連携・協働を重視。

中村 富士市の中核市移行からの連携中枢都市圏について、当市に

対して事前に説明はあったか。

企画部長 平成29年9月に、富士地区広域行政連絡会で意見交換したいとの提案があり、その後、富士市議会全員協議会で説明すると連絡があった。11月に両市担当課職員で、本市への影響、連携中枢都市圏について意見交換を実施。

中村 当市への影響は。

企画部長 富士市が独自に保健所を設置・運営することになるので、富士保健所の管轄が富士宮市だけとなるのが懸念材料。

市長 富士宮市の勢いは富士市をしのいでおり、影響はない。合併の話とは別問題。消防指令センター、共同電算化事業のように、連携できるところはやっていく。



▲富士山の観光地としての魅力を最大限に引き出すには、強力なDMOの設立が急務では

※DMO＝地域の官民の関係者との役割分担をした上で、観光地域づくりを行うマネジメントまたはマーケティングする組織のこと。